

第2回 三朝町温泉を活用した健康まちづくり事業 ワーキンググループ会議 健康部会（議事録）

【日 時】 令和4年12月21日(水)19:00~20:30

【場 所】 役場第2会議室

【参加者】 別紙のとおり

【内 容】 次のとおり

1 開会(村上企画課長)

失礼いたします。定刻よりは少し早いですけれども、メンバーお揃いになりましたので、ただいまから第2回三朝町温泉を活用した健康まちづくりワーキンググループ会議、健康部会について開会いたします。始めに、座長挨拶ということで、青木地域振興監からご挨拶申し上げます。

2 座長あいさつ

どうも皆さんこんばんは。クリスマスも近づいて参りまして、年末でもあるということで、こんなときにこんな時間に大変恐縮をしておりますけれども始めて参りたいと思います。縷々、経過は前回もお話しております。今日は健康分野ということで流れを作っております。皆さんからご意見をいただきたいと思っております。温泉との関係を持ち出しながら、町では、この機会に町の健康づくりもですね、少し目線を入れて、組み立てる中でそこには温泉があるというようなイメージでおるところでございます。今日は委員の皆さんと、役場の健康福祉課からも席に着かせていただいておりますので、意見をいただきながら、逆にこちら聞いてみたいことがあったりだとか、ざっくばらんな会議になろうかと思っておりますけれども、どんどんお話をしていただいて、もちろんできるできないとか、どうこういう話はありませんけれども、タマが出ないことには話は進んで参りませんので、そういう目線で見てくださいですし、それぞれ持っておられる分野が違っておりますので、高齢者を対象にしておられる方もあれば、子供さんとか、若い方を対象にしておられるというようなこともございます。その辺はなかなか議論ということにはならないと思っておりますけれども、ぶつけていただければ受け取って参りますので、よろしく願いをいたします。お世話になります。どうもありがとうございます。

3 意見交換

村上 課長	ありがとうございました。では、今日の部会はお手元の次第に沿って進めさせていただきます。3番の意見交換に移りたいと思います。このコーナーにつきましては、青木地域振興監に進行をお願いいたします。
青木 座長	それでは始めさせていただきます。私もこういう進行をやっていないものでございますし、もちろんプロではございませんので、なかなか皆さんにうまくリードできるかなというところがございます。その辺はご容赦いただきながら進めて参りますのでよろしく願いをいたします。 まずですね、事前にうちの方から、資料1というペーパーでこんなこととお話したいんですよというふうなものを送って参りましたが、少しそれに沿ってやるわけですから

	<p>も、手元にA3でペーパーを置いております。少し話がしやすいようにということで作ったつもりですが、一番左側がこの前もお示ししました、健康に対する取り組みとか、三朝温泉の活用ということの現状というものを、改めて書かせていただいております。今日はですね、ここから話が真ん中にいきまして、目指すべき姿というふうに書いております目標、町民の健康寿命の延伸、三朝温泉を活用した健康課題の解決ということに定めまして、健康づくりの取り組みでありますとか、温泉の活用ということで、どういったことができるだろう、どういったことをやったらいいのかな、そういったことを中心に、目指すべき姿についてボールをぶつけていただきたいなというふうに思います。で、そこがきますと、右側になりますけれども、それに基づいた施設の話ですとか、そういったものに触れて参りたいかなというふうに思っております。そういう意味でこの3番は、全体を見える状態で示しました。資料1で挙げておりました、三朝町に必要と思われる入浴施設、それから健康づくりの施設、それから温泉を活用した健康づくりというような項目で話しましょうということで挙げておりますが、これがこの中に溶け込んでくるというようなイメージでございますので、ご理解をいただきたいと思います。</p> <p>それでは僕ばかりしゃべっていてもいけませんので、本題に入ります前に、少しアイスブレイクということでございますけれども、皆さんから一言ずつ、お話をいただいた上で始めて参りたいと思います。今回ですね、町は温泉を活用した健康まちづくりというある意味、タイトルだけみたいなお話をさせていただいてですね、皆さんにお願いしたということでございますので、最初にざっくばらんに、それぞれの立場で、今回の集まった中でそういうテーマをもらってどういう印象を持たれて、どういうこと、例えば期待もあるのかもしれないし、心配されることもあるのかもしれないので、その辺を少し、委員の皆さんにお話をいただきたいと思います。では、基本的には右からいきたいと思いますので、糸原さんからお願いしたいと思います。</p>
糸原委員	<p>三朝温泉病院の糸原です。よろしくお願ひします。医療の方からの話というところですが、今、診療報酬って2年に1回いろいろ改定がされている中で、だんだん医療を受けることが難しくなってくる。保険、診療報酬改定といいながら保険料をどう削減していくかというところで、例えば、リハビリも日数が限られてくるとかですね。それから、入院期間が限られてくる、対象がすごく厳しくなってくるというところで、やはり健康寿命というところでいくと、多分間違いなく、普段は在宅で入院が必要になったら病院へという形がもっともっとこれから進んでいくと思います。ですので、いかに病院にかからない形にしていくかっていうところが、病院としては辛いところですけど、実際に「入院したい」「もっといたい」と言われても入院ができないとかですね、「リハビリをもっとしたい」と言われてもできないというところを、全体でどのように、健康が長く続く、健康で長生きができるようにしていくのかっていうことが一つのキーなのかなというふうに思っています。簡単にはフレイル対策であったり、そんなところになってくると思いますし、あとは家から出られない方をどうやって、ある一定地域のどこまで出してくるのか。そういったことを、今いろいろとバスも工夫をせっせとやっていますが、あれがこれからどのように変わって行って、今、家からどのように人を出してくるのか、だんだん高齢化して行って、免許もなくなってきた、奥の方から出てこられない方をどうしていくのかっていうところをどうやって出て来られる形に地域として持って行って、みんなでフォローしな</p>

	<p>がら、健康で長生きできるか。具体策がなかなか難しいですけど、医療から考えるとそういったところがこれからの重要な問題なのかなというふうに思っています。</p>
山根 委員	<p>三朝温泉病院の山根と申します。よろしくお願ひします。私の立場からすると、今もいろいろな形で、三朝町さんのいろいろな介護予防だとか、健康増進のところではうちのスタッフたちも微力ながら協力させていただいているところではあるんですが、一番、この事業を進めていくところで前も言ったかもしれませんが、ターゲットをどこにするのかっていうところによって、関わり方も変わってくるだろうなというところを思っていますし、自分は町民ではないですけど、住民さんの視点からいくとやっぱり魅力あるものを作らないと、なかなか今の時代は人が集まってこないんだろうなっていうところで、どうやって魅力を出していくかっていうのが課題でもあり一番難しいところだと思うんですけども、そこをしっかりと練っておかないと、箱だけつくってもなかなか人は来ないだろうな、そこが一番の肝というか難しいところだろうなと思っています。あとは、健康をする上で、運動をするとか、そういう温泉ってのはもちろんそうなのですが、やっぱりそこに、今の時代は食事というか、食のところを栄養をしっかり取った上で運動しないと、かえって逆効果っていうこともあります。フレイルだとかサルコペニアといわれるようなところでは言われてるところなので、そこをセットにして、食と温泉と運動みたいなのが形になっていくといいのかなっていうのは個人的に思っております。以上です。</p>
松田 委員	<p>三朝町社会福祉協議会の松田です。よろしくお願ひします。ちょっとずれた話になるかもしれませんが、前回の会議後、家に帰って思い出したのは、ある映画監督が熱海に移住して、熱海を舞台にした短編映画を撮ったときに、決して熱海の歴史を描いたわけじゃないですけど、戦後復興期から、都内から慰安旅行とか、新婚旅行とか、熱海にたくさん行く人がいて、それに伴って新幹線やら、道路交通網が発展していったってどんどんお客が増えていった。けどさらに日本経済が発展していくとそのお客さんは熱海を通り過ぎてしまっって、西日本、東北に行き、果ては昭和40年代には海外旅行に来て、この熱海はどんどん衰退していったというような内容をちょっと映画の中に盛り込んでる話がありまして、ちょっと仕事の関係で県外で研修を受けた時、関西の方、私より若い方とお話させてもらったら、「三朝温泉を知っています。おじいちゃん、おばあちゃんがよく話をしてました」っていうようなこと言っておられて、やっぱりそういう世代の方、関西で戦後から頑張っておられた方にとって、三朝温泉ってちょっとした憧れというか旅に行きたい場所だったんだな、というのをちょっと実感したことがありました。おそらく、温泉地という付加価値は時代が変わっても、それなりに価値を持つものなんだろうなっていうこともありますので、その価値、魅力が生かせる形になつたらなというふうには思っています。以上です。</p>
田村 委員	<p>すいません。湯治宿ゆのかをやっております田村と申します。先回も話しましたが県西部、米子から移住してきたのですが、この間も言いましたように、父親ががんの手術の後にへろへろになって病院から帰ってきて、10日ほど三朝に行って、ぴんぴん腕をふって帰ってきたというのが、それを目撃しましたので、それがショックでこの後の人生が変わって、移住してこういう宿をするようになって。でも実はそんなことを、三朝温泉にそんな力があるっていうことを知っている人は、ごくわずかな人ばかりでして、現在も宿をやっているんですが、県内の人、ほんのわずかしこられませんか。今、ちょうど北海道から</p>

	<p>も来られていますけど稚内の方から来られたり沖縄から来られたり、宣伝しているわけじゃないんですけども、口コミでおいでいただいています。8割9割の方ががんの方です。それ以外に、リウマチや腰痛の方もいらっしゃるんですけども、ほとんどががんの方です。でも保健所から温泉成分の注意書きとかをいただくと、真っ先にがんの人が入ると書いてあります。一番最初に、悪性腫瘍の人は入っちゃいけませんと。そのことを前の吉田町長に言いましたら、すぐに課長さんたちが飛んできて、その対策は保健所からそういう文書が来るけども、真っ先に書かんでもいいっていうことをおっしゃってました。一番最後に書いておけばいい、効能の方を先に書いてもいいっていうことなんですけど、誰もそんなこと教えてくれませんし、保健所から来たのをそのまま張ってるんですけど。何ががんに効くって言えないんだらうっていうのがずっとある疑問です。実際にうちに来てがんが消えて元気になって帰っていらっしゃる方もたくさんいますし、ちょうど7年、8年目に入りましたが、杖を忘れて帰った人が2人ありました。よろよろで来ていたのに、本当に忘れて帰っていく人がいるなんて、杖なし地蔵なんてありますが、実際にある話だなと思っております。そういったことを実感できる、体感できる施設が欲しいなっていうのがずっと思っていることでして、特にそういったがんとかは難しいにしても、理学療法士さんとか、医師が常駐する施設で、例えばスポーツ疾患の人たちが、リハビリできるような施設だとか。温泉病院さんがあるんですけど、もっとそれに特化した、施設があればなっていうようなことも思います。併せてがんも見ていただけたらいいんですけども。先ほどありましたけど、食ってというのはすごく大事だと思いますので、こんなにおいしい農産物があるところですし、海も近いところですし、医食同源ではないですが、身土不二という言葉もありますから、この場で集めた食べ物で健康づくりもできるっていうのもあわせてできるような施設であれば、世界にも発信できるのかなと思います。</p>
<p>牧田 委員</p>	<p>皆さんこんばんは。おもちゃ活動家として中部で活動しています、牧田かおりです。私はもう50代ですけど、子育て世代からお話させていただくと、今の子育てしている、特に育休産休とかでお休みされているママが、今何を考えてるかっていうと、人と集まりたい、そういった場所が欲しい、子供が遊ぶ場所がないってことがよく言われています。特に、子供を介して自分がすごく羽ばたきたいっていう若者、若い世代が多く、そういった方々に、三朝町として何ができるのかなっていうと温泉を使った食べること、それから、最近温泉病院の糸原さんが言われたように、ヒートシェアといいますか、温かいところに集まってくる、そういった部分もとても必要だと思います。もう一つ、前回の会議があった時に皆さんが、なんで精神サポートっていうこと全く言われなかったのか、箱を作るための会なのかなっていうふうにならないうところもやっぱり寄り添うような形でことを考え、第一にはならないかもしれませんが、ちょっと考えながら、場所を作っていただけたらいいなと思う。若い人で考えると、もう一つ働く場所っていうところも、一つ魅力のあることなのかなと思って、みんなが集まると、若い人も働けるってような、三朝町と隣の倉吉市だとかの市町村が「三朝町っていいよね」、「ああいう場所があっていいよね」って言ってもらえるような場所を作っていただけたら、三朝町内でなくて、町民として、人口が流入してくるっていうんですかね、そういったところにも持ってこれるんじゃないかなと思って。温泉を使ったそういった集まる場所があったらいいなと考えています。</p>

青木 座長	<p>ありがとうございます。ここからは、職員でございます。今までどっちかという、ボールが投げられたような空気もでございますので、その辺を踏まえてお話をさせていただけるといいかなと思います。</p>
漆原 係長	<p>役場健康福祉課の漆原といいます。よろしくお願ひします。先ほど牧田委員さんの話で子どもたちが集まったり、若い方が集まったりする場所っていうところでふと思い出したんですが、私が子どもの頃、今のブランナールみささのところに、温泉プールっていうのがあって、よく子どもの頃に友達と遊びに行っていたことをふと思い出して、そういったみんなが集まれる温泉を使った施設があるといいのかなっていうのを思い出しました。私は健康福祉課で、保健や医療、分野を担当させていただいているんですが、その中でやっぱり検診のデータとか医療のデータを見てみると、若い頃からの健康維持とかってところが、特に年齢を重ねていくと、若い頃の健康の習慣化っていうのがすごく大事なんだなっていうのを、よく感じるようになりました。やっぱり運動だったり、もちろん食べるものだったりっていうこともあるのですが、高齢者になるとどうしても健康維持っていうところが大事になると思うんですけども、それ以上に、若い働き世代の方の運動だったり食べ物だったり、生活習慣っていうところの健康増進の意識はこれから本当に重要になってくるんじゃないだろうかっていうのを普段から感じています。</p> <p>小さい頃の温泉プールの話に戻りますが、そういった温泉を使った施設で、健康増進をできるような運動施設もできれば、若い頃からそういった運動なりが習慣になれば、奥部からもある程度年齢を重ねてからも動ける体を作るっていう部分では、これからポイントとして、ターゲットとして、そういった部分も重要になってくるんじゃないかなと思います。これから皆さんとの意見交換において、アイディア等でいいものがつくれたらなと思います。よろしくお願ひします。</p>
川崎 主幹 介護 支援 専門 員	<p>健康福祉課の川崎と申します。よろしくお願ひいたします。仕事柄、高齢者の方と関わるお仕事をさせていただいているので、高齢の方にヒントを得て、どういうものが必要なのかっていうことを考えてみたんですけど、大体高齢者の今の現状としてはやっぱりがんの相談とか、膝と関節症の方の相談が多いし、あと認知症の方の相談が多いです。こういうふうに考えると、温泉で、がんが予防できるとか、そういうふうに、こういった資料を見ると目に留まるので、温泉の活用されたものもいいんだなというふうにはすごく感じます。山根先生がおっしゃったように、食と温泉と運動っていうのはとてもいいことだと思っていて、やはり高齢者の方は低栄養が多いです。というのは、やはり食事づくりが大変になってくると、自分たちで作れないから惣菜物を買ってくる。そうすると偏った食生活しかできないので、どうしても低栄養になりがちです。そうするとやはり若いころから食に対する意識とか、そういった例えば薬膳の食事とかっていうところを勉強できるとか、そういう文化教室とか、そういうようなことができる機会があれば、意識も変わるのかなと思いますし、あとはその認知症といっても、香り、温泉の湯気がいいっていうふうには聞きますけれども、いろんなリラクゼーションとして、いろんなアロマとかのそういった香りも楽しみながら、いろんな方との交流もできるような施設もいいのかなというふうにも考えたりもしています。あとは脳に対しても、音楽がとても良くて、脳の反応の方に通ずる音楽の意識というものがあって、そういうところの、バイオリンとか、三朝町ではいいところがありますので、そういうバイオリンとかの活用をしたりとか、オルゴールとか</p>

	<p>を聞けるような場所とかを活用しながら、いいものができればいいかなというふうに考えています。以上です。</p>
藤井 観光 交流 課長	<p>観光交流課の藤井と申します。観光なので、健康の方のお話がちょっとできにくい部分もあるのですが、今日こうやってお話を聞かせていただいて、観光的に見ると、まず、今回整備をするというような施設であったりまちづくりは、そもそも楽しい施設じゃないと駄目なのかなと。楽しいというのは、いろんな楽しみ方があると思うのですが、例えば無理に行くんじゃないで、自分が行くと自分にメリットがある。例えば、具体的な効果が体感できるとか、皆さんと一緒に集まって楽しむことができるとか、そういった形の、何かしら具体的な効果が体感できるというのが大切かなと思いました。それとターゲットのお話があったと思うんですが、健康の人が長く健康になるための施設とか、病気の方が健康に近づくための施設とか、何かいろいろお話を聞いて、どこをターゲットにするのかっていうのが、本当に大切だなと思ったところです。以上です。</p>
村上 課長	<p>企画課の村上でございます。このワーキングの担当課になりますけれども、企画課は広報なり情報発信ということもメインにしております。温泉の良さ、或いは健康づくりの大切さということを広く三朝温泉があるエリアに限らず、三朝町全体にその良さを実感してもらえよう、気を付けながら発信をしていかないといけないなということはこのワーキングを始めて、さらに思いを強くしたところですので、いろいろなご意見を聞きたいと思っております。余談になりますと、個人的には、私三朝町外からのよそ者でございます。今でこそ三朝に住んでおりますけれども、こちらに勤めてから、そんなに日はたっていないんですが、温泉も好きではなかったんですけども、ちょっとずつ、年をとって体を悪くして、温泉に通うようになってから、ちょっと体が回復したなど感じる機会が多くなりまして、個人的にも温泉の良さを味わっているところです。こういった実感も含めて、多くの人に伝えたいと思っているところでございます。よろしく申し上げます。</p>
矢吹 健康 福祉 課長	<p>健康福祉課の矢吹です。よろしく申し上げます。健康福祉ということで、担当課ということになるんですけども、最初に糸原さんが言われたように、これから医療を受けるのが難しくなる、介護施設に入りたくても入れなくなるような時代になっていくのかなというふうに思っています。なので、町長がこれからは予防、認知症予防、介護予防だという要素が大事だということ、本当に病院にかからない、介護にならないっていう、そういう準備が大事だなどと思います。この施設ができるっていうのにすごい期待というかワクワクした気持ちはあるんですけど、まだなんというか、霧の中にいるというか。どういう規模感で、どういうものができるのかなというのがまだ自分の中ではっきりしていない状況かなと思います。私は三朝温泉出身だったので、すごい温泉をとて身近に感じて育って来ました。私は温泉大好きなんですけども、役場に入って、旅館で忘年会しても、皆さんがお風呂に入らずにスッと帰って行かれまして。私は風呂に入るんですけども、あとラドン体操とか、健康の講演会とかを旅館でしたこともあるんですが、「温泉に入られていいですよ」と言っても温泉に入られずに帰っていかれる方が多いなという印象があります。私だったら入って帰りたいっていうのがあるんですけど、それが標準じゃないっていうか、そういうふうに使われない、温泉に行ったのに、入られなくても帰られるっていうところを、入っていただくっていうふうに使っていただくっていうのはどうやったらいいのかなというのを思ったりもします。以前、何も無いところでこけたことがありま</p>

	<p>して、フレイル予防って言うのはもう私の年代なんだなっていうのを感じました。私、別に日々何も体操しているわけではなくてですね、ただ私のこの50代からもう、将来に向けて、介護予防体操ではないですけど、そういう年代になってきたのかなっていうのを自分で実感をしています。ターゲットっていうことがあるんですけどもどこに向かっていっていかと、若い方は運動も日常的にやってらっしゃる方もたくさんいらっしゃるんで、私らの年代からになってくるのかなということを感じているところです。</p> <p>ワーキングの前に健康福祉課の中で話をして、青木地域振興監が作った資料ですけど、この資料に文字がない状態でいただいたところで、課の中で話をして、結論は出ないんですけども、何を作っても、仕掛けと申しますか、人にどうやって来てもらうか、住民さんに来てもらうかっていうのを、私たちがそれをしていかなきゃいけないなっていうところはあるんですが、まだその仕掛けの仕方っていうところも、ちょっと結論が出たわけではないんですが、仕掛けだよなっていうところの話をしながら、ただちょっとこの健康増進施設っていうところに期待をしているということもあるんで、これからどういうふうになっていくのかなっていうところ、自分もこうやって入らせてもらっているんで、すごい期待をしているところです。以上です。</p>
青木座長	<p>はい。ありがとうございます。今、ターゲットという話が出て参りました。健康づくりを考える上で、狭い意味で言うと、フレイル予防っていうことになりますし、もっと幅を持つと、例えば先ごろから見ていると、浴育、いわゆるお風呂と育成、子供を育てるといような言葉も目についたものですから、難しい話ではありますが、このターゲットというものについてちょっとコメントをいただきたいなと思います。</p> <p>絞るのであれば、次のターゲットということで、例えばプログラムとかそういった組み合わせも出て参りますけれども、絞ればこういうことがあるだろうし、幅広でいくとこういうものもあるんじゃないかというようなストーリーでコメントをいただければと思います。</p>
糸原委員	<p>先ほど矢吹課長のお話を聞いていて、私も思い当たる場所があるんですけど、40代ぐらいまではいろんな運動をしていて、そこからちょっと体調を崩したり、コロナがあったりして、一旦そこから離れてしまって、ここから運動しようかと思ったら、逆に怪我とか、そういったリスクの方が怖くて、なかなかそこができなくなって、どんどん運動しなくなっていく。ということで先ほどのフレイル対策の年代として、ここからかって言われると、確かにこの年代が動くことで、以前何かの会議の時に岩本さんが言われたんですかね、生産人口が減っていく中で、我々がどこか体を痛めたり、健康でなくなれば、その分、自分がまず働けなくなる、それに伴って家族が仕事を辞めてみないといけなくなるってことを考えると、やはりこの50代から、60代あたりが中心だと何だかできることが増えるのかなあなんて。70代、80代になってしまうと、もうできることは本当に介護のところに行ってしまうので。50代、60代であれば、体を動かすことや知識を得ることや人が集まる場所っていうところに、いろんなものができるのかなあと、先ほどのお話を伺いながら感じました。</p>
山根委員	<p>ターゲット、一番理想は全年齢だと思うんです。子供さんから、本当におじいちゃんおばあちゃんまでと、これが理想だと思うし、もしそうやるとしたら例えば時間帯で分けるとか、日にちで分けるとかいろんな使い方、やり方はあると思うんですが、私もちょうど</p>

	<p>同世代というかちょっと若いぐらいな世代に入ってきて、子供も離れてきて、自由な時間ができてきて、体力落ちてきてってところを実感する世代になってきて、この先定年等々を迎えて、10年20年先を考えた時にやっぱりそういう元気でいたいという意欲があるし、それなりに自由もできるようになってきたってところが、ターゲットになってくるかなというか、お金を落としてくれる人達になってくるのかなと思ったりもします。観光の面からいくとそういう思いもしたりもしますし、ただ普段は高齢者の方を対象にすることが圧倒的に多いので、高齢者の方々がより元気に、医療にかからないで済むようなくらいで、地域で過ごして下さるってところも、ターゲットになるだろうなと思っています。</p> <p>若い子育て世代っていうお話もあって、その人たちが、ただの温泉だとそこに集まるかっていうと少し選択肢としては難しいかなと正直思ったりするところもあるんですが、仕掛け次第だと思うんですけども、実際に倉吉市の市民プールとか、龍鳳閣とか、近くにそういう温泉施設もあるけど、子供たちがにぎわってるかなっていうとそうでもないような感じがします。どう仕掛けるかだと思うんですけども、そこにいろんな複合的なものを持っていけばそういうことにもなるし、ただ、三つの魂100までではないですけど、ちっちゃい時に温泉の楽しさとかそういうものを植えつけないと、大きくなって多分そういうところに行かないと思うんで、そういう面で行くと、ちっちゃい子たちに、温泉を使った楽しさだとか、面白さだとかっていうのを進めるのは三朝町民としてやるにはいいことだろうなと個人的に思ったりします。</p>
<p>松田 委員</p>	<p>事前資料をいただいて、三朝町に必要と思われるっていう言葉を見て、やっぱり三朝町民と三朝温泉の繋がりっていうところだと思うんですけど。私は生まれは小鹿で、夏にキュー祭とかあると、わりと中学生ぐらいだったら自転車ですっといけます。だから、夏の祭りだったら三朝小唄って思っていたんですが、20年ぐらい前に、今度は町内の森に引っ越しまして。引っ越してから、夏祭りに参加したら、三星踊りを踊られていて。いや、悪いわけじゃないんだけど、でも何か三朝小唄があまりかからない夏祭りに、やっぱり最初は違和感を覚えて、小鹿・三徳に住んでいたら、例えば、温泉につからなくても仕事へ行ったりするのに、ましてや倉吉市とかで働く人の方が多いんだから、三朝温泉を通る。でも、中の谷、竹田地区は、三朝温泉を見ることなく生活する人もたくさんいらっしゃるっていうのは、やっぱり歴然たる事実なんだろうなと。で、三朝温泉を知らない人はいらっしゃるだろうし、三朝温泉、どこかの旅館とかで温泉に入ったことがないっていう人もいらっしゃると思いますけど。ただ、生活にどれだけ温泉が密着しているかっていうと、そこでやっぱり町内でもその地域性、地域差が生じるということは確実にあると思います。高齢化して、免許返納をしなきゃならない。或いは町内のバスの交通、公共交通機関の利便性というようなことがあったときに、健康づくりのために三朝温泉活用といったときに、まずそこにそこを利用するための移動手段で大きな格差が生じてしまう。とすればやっぱり先ほど藤井課長が言われた、そういったものの魅力ということを高めていっても、現実問題そこに到達するまでのバリアが存在してしまっただけは町民にとっても、結局は近いところ、移動可能な一つのためだけのものになってしまうんじゃないかなっていう。三朝町に必要と思われるっていう言葉を見た時に、やっぱり一番気な私が気になったのは、この点です。</p>

田村 委員	<p>年齢層って言うことですけど、僕はずっとその病気の視点ばかりで見ているものから、湯治の視点でいくと、アトピーで血だらけの赤ちゃんがやってきたりしますけど、何日間かで結構目に見えて良くなったりするのを見ると、0歳からとても高齢な方まで、どんな人にも元気になれる温泉だなんていうのを実感として持っています。先ほどもありましたけど、宴会の後に風呂に入らずに帰る人が多い。鳥取県民がカニを食べないのと一緒だと思うんですけど、宴会で出ているカニに手をつける人が少ないなど。県外からわざわざカニバスに乗って食べに来るのに、県内の人は、その魅力をあんまり感じてないというか。そこの辺の発信を上手にやっければ、わざわざよそに行かなくてもこんなにいいところは無いというふうに気付くんじゃないかなって言うふうに思っています。</p>
牧田 委員	<p>ターゲットというところでいけば私的には、若い方というような考えではあります。松田委員と同じ地区に住んでいまして、倉吉の三星踊りが夏祭りに戻られてるっていうところはすごくびっくりしたんです。花火も見れない、音も聞こえないっていうところに住んでいて、三朝の祭り……。っていうところもあるので。そういった面で、地域全体の方が利用できるというふうに考えれば、全年齢っていうところにもなってくると思って、何か具体的にここにピンポイントっていう具合に、ちょっと私の中では決めにくいなっていうところも正直あります。</p>
漆原 係長	<p>ターゲットっていう形で絞らなくて、今ふと思ったのが倉吉の市民プールなんですけども、市民プール、未来中心のところにあるところは、普通の25メートルのプールと流れるプール、すべり台がついていてっていうところを想像した時に、流れるプールやすべり台は小さな子供やその保護者だったりっていうある程度年齢層の若い方が利用して、同じ施設でも、25メートルプールの泳ぐレーンではない、歩ける部分っていう部分では、割と高齢な方が利用されてるなあっていうのを思い付いたので、施設の作り方で、ターゲットっていうのは広くはなるとは思うんですが、その部分の、施設の中のものっていうのは、ある程度、ターゲットを絞ったもので作っていくっていうのが、いいのかなって考えました。</p>
川崎 専門 員	<p>私的に考えるのは、ある施設を作ったとしても自分で出向くっていうことを考えると、運転していける世代、子供さんであつたら親御さんが一緒に行くとかっていうことになりますので、自分で動ける世代かなというふうに考えます。年齢的に制限しても、いろんな健康状態、ばらつきがあるので違うと思いますし、いろんな場所に行ける、そして何か動くことができるっていうところで健康づくりがいいのかなというふうに考えます。</p>
藤井 課長	<p>ターゲットですけども、全年齢が望ましいのはわかるんですが、僕が思うのは、子供さん、それから高齢者、それから健康に不安がある方かなと思ったところです。以上です。</p>
村上 課長	<p>健康まちづくりという冠をつけて検討をしております。健康寿命の延伸が大きな目的っていうふうに考えると、高齢の方が中心に、ここはいいところだという思いを持って使っていただけるのが望ましいかなと思っておりますが、それに限ることはないと思います。プラスアルファで、その他の世代にも良さを伝えていくというふうにできればと考えます。</p>
矢吹 課長	<p>そうですね、理想は全年齢なのかなというふうには思いますが、自分でやっぱり動ける方、行ける方っていう、川崎さんが言っていましたけども、行けない、高齢になられた方は連れて来てあげるっていうところになるのかなというふうには思います。</p>

青木 座長	<p>ありがとうございます。少し絞ってみたいと思います。ここに、健康増進のペーパー、茶色いペーパーでございます。健康増進をやる、ターゲットが決まらない中で、メニューはなかなかテーブルに乗せることは難しいわけですが、ある自治体が、温泉のある町でございますけれども、温泉を活かしながら取り組んでいる健康づくり活動ということで拾ってみました。湯中運動でありますとか、トレーニングですとか、運動教室とかというようなことございまして、これはプログラム、対象が決まれば、対象に従ってできるものだというふうには思っておりますが、例えば、湯中運動とかですね、温泉病院さんのリハビリの中であるのかなというふうに思いますが、具体的にこれをこういう健康まちづくりを考えると、こういった部分というのを、存在について少しコメントをしていただけたらと思います。山根さんになりますかね。</p>
山根 委員	<p>温泉に限らずだと思うんですが、水中運動のメリットとして、うちの病院とかだと膝が痛いとか、腰が痛いとかそういう関節痛を伴ってるような方々は、水の浮力で浮くんで、そこで必要以上に負担をかけずに、効果的な運動ができるのが一番の水の中での運動のメリットだろうなと。そこに温泉が入るとさらに効果が増すということでもいいことだらけだと思っております。ただ、温度が上がるんで、心臓の負担とか、そういうところにかかる負担とかを考えると、ちょっと温度も考えないといけないところありますが、水の浮力とあとは粘性という形で水の抵抗で筋力も効果的に使えるだろうなというのが一つのメリットだと思いますし、一方で、ただ浮くだけでも、リラクゼーションというか、重力から解放されるというところから、ただ単に浮き輪に掴まってフワフワ浮いているだけでもよくて、そこにも誰かセラピストという方に付いて運動してあげると、余計に体のこわばりだとか硬さが取れて腰痛とかにもいいんだろうなと思ったりして。湯中運動とか水中運動のメリットはたくさんあると思いますし、ここで出ている映像なんかも多分アクアビクスみたいな、ちょっとそこで有酸素運動的な運動をみんなですてるんじゃないかなという映像に見えますけれども、多分あの関金はそのようなインストラクターをつけてされてると思います。それはそれでまた効果的な有酸素、痩せるだとか、例えばそういうところに女性が集まりやすかったりだとか、より健康にというところでのメリットもあると思いますし、何でもそうかもしれませんが、そこで指導できる、上手に参加する人を乗せてやれる人がいれば、すごく効果的な運動だろうなと思います。</p>
青木 座長	<p>はい。ありがとうございます。それでは温泉を活用しているという意味で言いますと、社会福祉協議会にはお風呂がついておりまして、これを活用しておられるんですが、その辺の状況を少し参考になればと思いますので、コメントいただければと思います。</p>
松田 委員	<p>三朝町横手、三朝温泉病院さんと川を挟んで向かい側に三朝町立福祉センター、通称レスポワールですね、平成3年でしたね、その頃はまだ私は勤めてはなかったんですが、町立の福祉センター、制度上の位置付けとしては地域福祉センターということで、地域の皆さんが集まって交流促進ですとか、住民の皆さんの活動に活用されるための施設、主には老人クラブの方の定期的な集まりなどに使っていただくとし、或いは自主的にその集まりをされる場合に活用されるというところでの施設になります。そこに一般の方も入浴の目的ということだけで利用していただくことも可能ですし、当時は、本会が町から高齢者のデイサービス事業、ご自宅での入浴が困難になってこられた状態の方が、主に入浴をされることでのデイサービスのためにも使うということでした。平成12年に介護保険制度</p>

	<p>が始まりまして、そこはもう本会の介護事業として、現在は行っているところではありませんが、一般の方が入浴されることと、介護の目的、町民の方の生活上の福祉課題解決のために、福祉センターの一般浴を活用していただいているという状況ではあります。入浴料のことについて、その開館当時の金額設定ちょっと忘れてしまったんですが、20年ぐらい前に一度、町内外問わず75歳までの方は100円に値下げして、さらに75歳以上の方や障害者手帳をお持ちの方は無料ということにして、とにかく来館者をたくさんに利用していただくということでそういった金額設定を変更したことがあります。確かに、そのことによって利用が増えましたが、そこから5年ほど前、倉吉市内で銭湯が多く廃業されたときに、さらに町外の方の利用がものすごく増えた。するとその町内の方と町外の方でお風呂の使い方が違う、マナーが違うということでもちょっと苦情多く寄せられたこともあり、現在、町内町外の方とで、町内の方200円、町外の方300円ということで料金設定変更しました。そしたらやっぱり車を運転したり交通費使って、三朝に来るよりは、他のところの方が安上がりだって判断されたのか、町外の方が減りまして、それでも来られる方は来られてることもあります。やっぱり一つには、ご自宅にお風呂を持たれてない方というのが、一定層おられる中で、三朝温泉を活用されるという選択肢をとられる方もおありになる。そういったときに健康、いけば日常的な清潔維持とはいえこれも健康のための利用目的ということにもなるんだろうなど。コロナ禍になってから、名簿を入浴の際には書いていただくようにして、お名前ご住所記載していただくんですが、これやっぱり他の先ほどの話にもなりましたが、竹田方面からも定期的に利用してくださる方もいらっしゃる反面、やっぱりどうしても近くの方になってこられるというところで、どうしても何といいますか、広く使っていただくということが、距離的に難しかったり、移動の経費とかの問題で難しいってなってくると、単純にやっぱりその入浴施設の利用料としての問題だけでなく、ましてはまた燃料費高騰とかが今広く問題になってくると、考えようによっては福祉センターとか活用していただいた方が、家でお風呂沸かすより安く上がることもあり得るのかなと思ったり。あとちょっと受託事業として生活困窮者支援事業も行ってありますが、中にはちょっと生活費で困っておられる方に対して、福祉センターでお風呂に入ったら、経費浮きますよ、なんてちょっと情報提供させていただいたこともあります。だから、活用の仕方って本当いろいろ考えられると思うんですが、ある意味今の町立福祉センターの間口の広さがあるからこそっていうところもあるでしょうし、明確な目的をこういった運動面でちょっと確立していくと、場合によっては間口が狭くなってしまふのかなっていうところも思ったりするところです。</p>
<p>青木 座長</p>	<p>はい。ありがとうございます。もう1点、先ほどターゲットの中で、唯一という言い方は変ですが牧田さんが、若い方ということで、いわゆる若い時というか子供も含めて、温泉の気持ちよさといいますか、そういったものを植え付けるという考え方ってというのは、僕もあるのかなということで、今回の取り組みについては、いわゆる、松田さんが言われた地域性の話とか、距離とか時間の話というのは、どうしようもない、ある意味どうしようもないこととございまして、これに対しては例えばだから健康を共有できる、距離と時間は、どうしようもないんだけど、健康の恩恵を共有できるというストーリーが、いいのではないかとということでそれが三朝町民だということでやったらどうかということで、若い世代の方に僕は入ってもらいたいと思うんですが、さっき言いました子供さんと、お</p>

	<p>父さん他お父さんとかお母さんとかとか、浴育っていうような言葉もありますが、その辺について効果といますか、もし何か、お考えとかがありましたら、ちょっとお話をいただけますか。</p>
<p>牧田 委員</p>	<p>そうですね。子育てにおいて、お母さんの精神的な健康というものが、子供には大切です。大切というよりか子供を優しく包むお母さんのおおらかさ、余裕のあるっていうところで、そういった面もあるので、やはり子供、若い人若い人とかっていう考えではなくて、全体的に何か考えて、子供、子育てするにはママやパパのやっぱり精神安定とかっていうところで、特に子供はですね、お腹にいるときの感覚に似たもの、生まれてきてからもそれを幸せだと感じる人が多いと言われていています。赤ちゃんの時にはママが抱っこしてくれて、その皮膚感覚が楽しいとか、幸せだって感じるんですよ。そういったところから、一緒に入浴するっていうところであると考えれば、特にお家に入ることも全然同じなんだと思いますけれども、どこかに行って、思い出の中の一つとして、入浴がある。そういった肌と肌を触れ合っというような経験が子供を育てていく、子供の心を育てていくのには、とてもいいんじゃないかなと思います。</p>
<p>青木 座長</p>	<p>いろんな温泉の効果があるというふうに思いますが、もう1点の切り口として、三朝温泉に、現代湯治という文化、田村さんおられますので、そういう感覚はすごくお持ちだと思っておりますが、ある意味、町民にとって健康づくりと、町民の湯治ということが結び付くことが、このプランの何となく流れを作るときに、そういうことかなっていうのは、わかりやすい話ではないかなと思うんですが、そういうことを例えば、さっき田村さんが言われてましたが、県民が知らない、ましてや町民もそういう感覚というのはいないんですね。三朝温泉に入ることが湯治という感覚で、あくまでも現代湯治の言葉もそうですけども観光ベースでどちらかというと言われてる言葉ですので、こういうのを町民湯治のような形で取り入れていくということもあるような気がするんですが、町民の湯治という感覚で考えたときに、どうかなということでご意見をいただきたいと思います。例えば環境が無いとかっていうこともあるでしょうし、いいことだという部分もあるでしょうし、無い部分は作らないけんとかということも含めてでございますけれども。では糸原さんからいきますか。</p>
<p>糸原 委員</p>	<p>言葉からすると、三朝温泉病院に現代湯治っていう遠くの方が来ていただけるプランがあるんですが、こちらでも使えますよっていうような商品じゃないような気がしていて、ここまで来て健康診断だったら別に三朝じゃなくても、うちの病院じゃなくてもいいんじゃないかなあって思うようなプランであったり、さっきの湯中運動でする当院の運動浴も、鉱泥湿布にしても、利用できる方が限られてしまっているなって思うんですね。だから、そういったものが、町民の方がうまく利用できるように、運動浴もできるし、鉱泥湿布もできるし、という形になってくると、その湯治というところからすると温泉を使って何かするという事になっていくのかなあっていう気がしますし、この前ちょっとラマルー・レ・バンの温泉施設のものを見させていただいたら、施設の中には運動があり、セラピー、音楽セラピーかなんかそういうセラピー系があり、それからジャクジーがあり、それからリフトで体の不自由な方が入られるお風呂があり、先ほどから年代とか世代を限定せずに、いろんな方が利用できる湯治であり、集まれる場所であり。湯治って言うとそこなんか難しい。浸かるっていう感じになっちゃうので、何か集まれる場所であっていいと思</p>

	<p>いますし、観光からすると、そこに何か1週間のプランみたいなのがあると、それが運動して、1週間のプランでこんなふうにみたいなのが組み込めば町内、町外の方も一緒に使えるようなものになると湯治であり、リゾートであり、観光でありっていう形に使えるものもありなのかななんてちょっと回答がずれてしまったかもしれませんが。</p>
青木 座長	<p>はい。ありがとうございますでは、田村さんに聞いてみましょうか。</p>
田村 委員	<p>この間、岡大の中村栄三先生の講演会がみささ村地域協議会であって、その時に三朝の地下には大量のウランが眠っていて、それが崩壊してラジウムになって。それがまた崩壊してラドンガスになって、温泉水、温泉に溶け込んで出てきて気体として、それを吸ったりすることで体の免疫力や何かが上がっているんだっていう話がありました。温泉水も大量に流れ込んでますし、それ以外にも、地面からラドンガスが出てるんじゃないかっていうので、実際うちに湯治へ来られた人、大抵の方は毎日ウォーキングをしたりしてるんですけど、街を歩いているだけで元気になるとおっしゃるんですね。それは環境がいいからっていうのはあるんですけど、でもやっぱりラドンガスがどっかから出ていて、その上を歩いているだけで、やっぱり元気になっていってるんじゃないかなっていうのは実感として見てますので、そういったものも取り込むような施設であればいいなと思います。ウォーキングのコースをちゃんと歩道も整備するとか、サイクリングでもいいですし、あとトレッキングや山を歩く施設もつくられたらいいんだろうなというので、温泉ばかりじゃなくて、そういったものも視野に入れながら、健康増進できたらいいなと思います。</p>
青木 座長	<p>はい。ありがとうございます。藤井観光交流課長が、三朝温泉は詳しいですけども、現代湯治と町民の健康について、少しコメントをいただければと思いますが、いかがでしょう。</p>
藤井 課長	<p>先ほどの田村さんからあった話、僕も聞かせていただきました。要は空気中のラドンの濃度を考えると、単純にラジウムが崩壊する量がすごいのではないだろうか。地下に大量のウラン鉱があるんじゃないかっていうようなお話が発端だったという部分です。確かにホルミシス効果と言われるような、歩いているだけで、どこっていう部分もお話の中には出てきました。いろいろ観光の部分と照らし合わせてみると、先ほど歩いたり、サイクリングがあったり、いろいろ健康に資するような取り組みもやってはいるんですけど、たまたまちょっとこの日本遺産の取り組みをする中で、いろんな有識者の方にお越しいただく機会がありました。先般も東京の方から来られた方、温泉の方もいらっしゃいました。温泉の研究家の方もいらっしゃいましたけど、やっぱり滞在をする、ウォーキングの道を整備するというのもいいですし、それから、やっぱり温泉街でいうと、座る場所が欲しいと。ベンチでも椅子でも、例えば健康むらから川沿いの道でも椅子があると、長く過ごせられる、そこで何かしら自分の好きなことができるとか、そういう助言もいただいたこともありましたので、基本的に観光からすると、滞在をしていただくためにはこういった取り組みをして満足していただけるのかという話になると思うので、今のお話の中でいうと、結局今やっていること、例えば鉱泥湿布であったり、熱気浴であったり、温泉で活用してるものが、みんなここにあると楽しいのかなって、ちょっと思ったこともありました。例えば、限定されている鉱泥湿布がこれぐらいの部屋で20人でもいっぺんにできる</p>

	<p>とか、例えば。飲泉も飲み放題って言ったら駄目かもしれませんが、なんぼでもどうぞ、限度はあると思いますけど。そういったものがここに来たら、いろんなスポットでもできるんだけど、ここだったら、とりあえず全部含めていけますっていうようなことも一つ施設としてはありなのかなとも思ったところですよ。以上です。</p>
青木座長	<p>そうですね。町民の健康を進めようとする時にさっき矢吹課長が言っていました、要は参加の数とか、管理することとか、乗っていただくこと、参加をすること、そういうことが非常に影響するんだろうなと思うんですが、例えばこれが温泉、例えば入浴施設ができたとしてもですね、入らなければ結局はそういうことですよっていう話にもなるし、運動だって場所は作ったけど、そこをどうするかっていうのが、もう一つ大きな感じがしております。その辺について矢吹課長、何か言えることがあったらどうぞ。参加者を増やさないと、要するに率は良くなるならないなという話でございまして、難しい質問だとは思いますが、何かその辺でコメントがいただければ。</p>
矢吹課長	<p>そうですね。来ていただかないと、何も始まらないんじゃないですが、来ていただくためにどうしたらいいのかなっていう。ウォーキングをするにしても、役場に集合して、本泉の方に行きましょうとしてもちょっと少なかったりするんですけど、今年ちょっとバスに乗って、町外に出たり、中津の方に行ってみようとか、馬場の滝へ行こうかとなると、あつという間に定員が埋まってしまったり、やり方とか、集まってく方法とかも考えていくのは私らの力量なんだろうなっていうところはとても実感をしています。</p> <p>この施設ができたときにどうやったら住民さん来てくださるかなって言った時にそこでちょっと健診ができたり、私らがそこで働いたり、そこにいるのかなとかっていう話をちょっとしたところですよ。</p>
青木座長	<p>一つの考え方として、インセンティブっていうのがありまして、例えば、智頭町ですと、間伐材を小判にして地域通貨にしてくっていうのがあって、例えばちょっと書いていますけど、マイレージという考え方があって、要するにスタンプを集めると入浴券になるとかいうような温泉をうちの資源って温泉だと思うので、温泉を常にそこに結びつけていくようなこともやったら面白いかもしれないなとかっていうような話もちょっと出たりしております。それでは次、もう1個ありますので行ってみたいと思いますが、施設の話でございまして。当然今までの話があつち行きこつちいろんな膨らみを持っていますので、施設があればはなりません仕組みとして、カラー刷りのものがあって、先ほど矢吹課長も言っていましたけれども、センターになる施設があって、入浴施設があって、関連施設があつてというぐらいのことは簡単に想像がつきますが、もしも、先ほどの機能とかターゲットの話はいたしましたが、入浴施設をもっと作ると、おそらく作るようになるんじゃないかと思いますが、その入浴施設に対して、今度はちょっと、先ほども「三朝はいいよね、〇〇があつて」とかいうようなことも含めて、ちょっとシンボリックな施設なのかもしれないけれども、もし作るとしたら、その入浴施設に限定したいと思います。作るとしたら、どんなものがあつたらいいとか、どんなものがあるとか、どういうことかと言うのを、今度は委員の方に聞いていきたいと思っています。糸原さんからお願いします。町民限定ではないですけども町民の健康づくりに繋がる入浴施設というイメージですけども。</p>

糸原 委員	入浴施設に限定するっていうと、お風呂以外に何か作るか、それともお風呂だけですか。
青木 座長	そこもお任せします。入浴施設のある施設ということにしましょう。
糸原 委員	今、温泉に入るっていうと、旅館のお風呂に入るか、あとスーパー銭湯的なところに行くってなって、家族連れが行けるとなると。全部が総合的にやるのが一番いいんだろなっていう気がしまして、そこに行ったら、温泉に入れて、子供が遊べて、鉱泥湿布ができて、運動浴ができてっていうのが一番いいんだと思うんですけど。まとめる、いろんなものをまとめれると、そこへ行こう、家族連れて行こう、おじいちゃん連れて行こうとなるのかもしれないね。
山根 委員	財源が耐えられれば、一つにはこれにドーンとこういうここに書いたのが全部集まって、さっきもあったように健診もできて、お風呂だけではなくてそういうちょっと広いスペースがあって、今どきの多分若いお母様方とかは、ピラティスとかヨガとか大好きだと思うんで、そういうものもできてそうすると、その間子供さんと一緒に行ったとして子供が預けられるような託児施設みたいなものちょっとないと、本当に子育て世代のお母さんは集まりにくかったりするだろうなとかっていうものを思ったり、最初の話に戻って食事もって思うと、そこで三朝の特産物であったりだとか、イノシシをとってジビエの何かをやるだとか、そこで本当に食も入り、楽しみもあり、レジャー的なところもあったり、温泉も入れて、しかも最近だとサウナのようなものも一つだとあれなので、そこにくっつけて、いろいろ欲張っていくと、そういうものが出てきて、既存の吸ったり、温めたりだとか、いろんなものをつけていけると一番理想だろうなどは、何も責任がない立場で申し上げます。
松田 委員	社会福祉協議会という立場で、先ほどから地域っていうことを申し上げさせてもらいまして、やはりその地域の部分っていうのはちょっと、切り離せないんですが、これに関して言うと、全く私の趣味の話で、コンテンツ連動、いわゆるテレビアニメーションとかゲームになって、聖地巡礼でお客さんが来るっていうパターンの要素がいいんじゃないかなっていう。それこそ今までの話と全然関係なくなっちゃうんですけども。いわゆる温泉娘のお話でも、ちょっと公式ホームページでとあるキャラクターの設定がちょっと批判があっただけのことでもあったんで、この手のジャンルはだんだんやりにくくなっていくとは思いますが、反面、インターネット上での情報発信をするときに、キャラクター性とか、そういったものは、やり方次第ではまだまだ有効だと思いますので、そういったコンテンツと、ここのテーマを何がしかでからめて、しかも単発的ではなく、それこそ健康づくりですから、息の長いコンテンツとし絡めて、ネット上とかのそういった情報にも載せられるような、そういったものになったらいいなと思います。
田村 委員	温泉娘というキャラクターは、今まさに発信していると思うんですが、僕はちょっとアニメが苦手なので、知識がないんですけど、温泉の施設でいうと、三朝にしかないっていうか、割と独自性があるなっていうふうに思ったのはオンドルがあるお宿が何件かあります。中屋さんとか木屋さんとか。うちの父親は梅屋さんで湯治をしたんですけど、梅屋さんにもあって、結局僕が今やっているところは、地熱がないのでオンドルはできないんで

	<p>すけど、あれが一番体に良さそうだなって言うふうに思ったものですから、韓国から技術者を呼んで、下に人工的にボイラーで沸かした温度を一定量ずっと流して、オンドルを作っています。そこに温泉水をちょっと出して、ラドンガスが発生しないかなって言うのでやってるんですけど、それがすごく、皆さん評判が良くて。中にはベッドで一睡もせずに、オンドルで夜中じゅう寝てる人もあります。こないだそういった方が、がんが全く消えましたって来られて、それとの関連性はわからんのですけども、元気になって帰られる方もいます。もう一つお風呂を全部貸し切りで入る、空いてたら、施錠をして入るっていう単純なルールなんですけども、それをやっています。それはなぜかっていうと乳癌で全摘した方々とか、そういった方は同性でも入りたくないとかね、あるいはいっぱい手術痕で傷だらけっていう人達もやっぱり男性でも、一つ入りたくないっていうのがあるので、貸し切りで入る。奥さんに介助が必要だったらご主人が介添えで入られるように、夫婦で入られるっていうこともあって、二つあるお風呂を貸切で、最後に扉を開けとくっていうルールだけで、鍵をして入るっていうので、運営しています。ですから温浴施設があってもやっぱりそういったところに目を向けたものもあると、ありがたいかなって言うふうに思いますし、子供のころにその大きいお風呂に入って、わあわあ騒いだ記憶もありますから、そういったものもありながら、ちっちゃいお風呂もあったり、それからその温度のよなものとかミストサウナだったり、今の熱気浴的なものもあるとか、やっぱりここで健康づくりができるっていうのは、すごく大きな魅力だと思いますんで、うちのそのオンドルでも、ヨガをさせてくれてといわれた方もあったんですけども、インストラクターの方がヨガ教室をやりたいと。ちょっとうちの都合と合わなかったんでお断りしたんですけども、そういったものもしながらすると、やっぱりより健康効果は高いのかなって言うふうに思います。</p>
<p>牧田 委員</p>	<p>お風呂、入浴施設、大きなものがあるっていうのが条件なんですけど、私は逆にお風呂に入らない温泉という感じで、逆の転換、逆の発想で、先ほど言われたように、熱気浴とかオンドルとかを使って、若い方、裸を見られたくない、病気の方もあるんですけど、そういった方に合わせた個室だったりとか、Tシャツだけで過ごせる大広間のような感じで、みんな集えるところがあったり、部分的に足浴、手浴だったりっていうところで、何かあればいいなっていうふうには思いますけど。私的にはお風呂に入らない温泉っていう発想でいったらいいなとは思っています。</p>
<p>青木 座長</p>	<p>はい。ありがとうございます。入浴、もう今バラエティーに富んでおりますので、そういう意味では、一つ一つを、ある意味大切に扱いながらという意味合いが非常に伝わってくるお話でございました。この絵にも出ていますけれども、様々なお風呂も増えていまして、すーは一温泉があるとか、そういったものもありますので、これが一つのポイントにはなっておるのは確かでございますが、やはり三朝温泉のすーは一温泉でございますから、そういう意味ではちょっとまた敷居が高いのかなって言うのはあると思っております。このあたりも先ほどの湯治とか、温泉に近づく町民の仕組みづくりとかっていう中で変えていくというか、やってみるべき部分はあるかと思っております。いろいろとお話を聞いて参りましたけれども、予定する時間が近づいて参りましたので、このあたりでちょっとしめくくっていきたいと思っておりますけれども、いろいろご意見をいただきました。もう少し入ると具体的な仕組みとかですね、やり方とかというお話もあろうかと思っております。</p>

	<p>が、今の段階ではちょっとそこがまだ話ができないという部分もございます。まとめまして、次回にお示しをするように我々が勉強して参りますけれども、僕の上手い下手もありまして皆さんの意見をどれだけ引き出せるのかなというのが心配でございましたけれども、この後もですね、もし思っておられることがまだまだあったぞってというようなことがあれば、事務局の方からでも問いますし、伝えます。ぜひ思っていることは、くださいっていうのがお願いしたいことでございます。今日の日、まとめる訳にはなりませんけれども、いただいた意見を組み立てて参りますので、次回によろしくお願いをしたいと思います。とりあえず私からは以上でお返しをしたいと思います。</p>
--	--

4 その他(5 閉会)

村上 課長	<p>はい、ありがとうございました。皆様貴重なご意見をいただき、感謝しております。組み立てはこれからになりますけれども、整理をしまして、3回目の部会で、基本構想のたたき案をお示しできればというふうに考えております。座長申しましたように、それまでも構いません。また、ご意見なりをいただければと思いますし、ご相談をしたいと思えます。3回目のワーキンググループ会議でございますけれども、時期としましては、1月の中旬から下旬ごろを想定しております。日程調整につきまして、改めてご相談した上でお知らせをしたいと思っております。御都合つく限り、御出席をお願いできればと思えます。その際でもまた、それを見ながら改めてコメントなり助言をいただければというふうに思いますのでよろしくお願いをいたします。</p> <p>それでは、用意しておりました日程はすべて終了しましたので、以上をもちまして、本日のワーキンググループ、健康部会を閉会としたいと思います。皆様どうもありがとうございました。</p>
----------	---